

「第8回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」 県内学校ダブル受賞



受賞者・関係者で笑顔の記念撮影



大道小学校6年生児童代表受賞のあいさつ



豊見城南高校美術(写真)部のみなさん

- ◆ひめゆり映像賞「過去を知り、未来を創る。—平和を『自分事へ』戦後80年」
那覇市立大道小学校6年生
- ◆特別賞「ひめゆりと私が紡ぐ未来」 沖縄県立豊見城南高等学校美術(写真)部

2026年3月30日、「第8回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」の授賞式を開催しました。今回は那覇市立大道小学校6年生と沖縄県立豊見城南高校美術(写真)部がそれぞれ「ひめゆり映像賞」「特別賞」を受賞し、県内校による初のダブル受賞となりました。授賞式では、館長の普天間朝佳より表彰状と賞金が授与されました。

両作品には、場所を通して歴史と向き合ったという共通点がありました。大道小学校は、かつては沖縄師範学校女子部の附属小学校で、校庭の一角にはひめゆりの学校跡地を記念する彫刻「二輪の百合」があります。身近にある彫刻に目を向け、地域の歴史を学び、足元から平和を考える視点が評価されました。代表の古川心彩さんと橋本百花さんは、「そこで普段学んでいる私たちだからこそ、ひめゆり学徒隊のことを身近に感じることができた」「平和についての考えや活動を深められてよかった」と思いを語りました。

豊見城南高校美術(写真)部は、ひめゆり関連の戦跡を自ら歩いて取材し、足を運んだ場所で歴史に向き合い、感じた思いを率直に表現しました。参加した部員の嘉数望来さん、大宮穂乃花さん、仲吉琉奈さんは、戦後80年の節目で、沖縄の学校が受賞できてよかったと喜びを述べました。

授賞式には選考委員の宮平貴子さんも出席し、両校の真摯な取り組みへの感動を語り、歴史を受け継ごうとする若い世代を激励しました。

映像コンテストは今年度も夏頃より開催予定です。皆さまのご応募をお待ちしています。

当館YouTubeチャンネルで視聴できます



CONTENTS 目次

◆「第8回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」 県内学校ダブル受賞	01	◆資料館の動き	04
◆トピックス	02	◆【最終回】本棚(仲程昌徳)	05
◆コラム相思樹	03	◆連載「本棚」一覧	06
◆2026(令和8)年度の主な事業・イベント・出版	04	◆統計に見る2025年度	08

■「戦後80年特別展 ひめゆりと八重山」－ 里帰り展示 －

2025年12月20日から2026年2月28日まで、当館第6展示室にて「戦後80年特別展 ひめゆりと八重山」を開催しました。本展は、昨年8月に八重山平和祈念館(石垣市)で実施し、大きな反響があった「戦後80年移動展 ひめゆりと八重山」の里帰り展として企画したものです。会期中は修学旅行生など県内外からの多くの入館者が見学しました。

八重山出身のひめゆり学徒の遺族や家族など関係者の中には沖縄本島在住者も多く、今回の開催によって、そうした方々に展示をご覧いただく機会となりました。会場では、展示で紹介した生徒のきょうだい、お子さん、お孫さんに当たる方々が、懐かしそうに展示をご覧になっていました。一方、沖縄戦で亡くなった親族に思いを寄せるご遺族の姿もありました。元ひめゆり学徒の仲里正子さんと知念淑子さんもご家族とともに来館し、ゆっくりと展示をご覧になりました。

来場者からは、「八重山の海の青さと美しさと、彼女たち、先生方がたどった悲しい運命が対照的で何ともいえない気持ちになりました。戦争はぜったいしてはならない!!と強く感じました。」(沖縄県、53歳)「当時のひめゆりの人とは、会ったこともないが、その人には家族や大切な人がいたと考えると、より身近なことだと思った。」(神奈川県、高校生)などの感想が寄せられました。

※本事業は、「令和7年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業」の採択事業です。沖縄県、(公財)沖縄県文化芸術振興会の支援を受けて実施しました。



「ひめゆりと八重山」展示会場風景



友達のことを話す八重山出身の元ひめゆり学徒

■「沖縄・平和と人権博物館ネットワーク」の戦後80年事業

県内8つの博物館が加盟する「沖縄・平和と人権博物館ネットワーク」は、沖縄県と共同で、戦後80年に合わせた多様な事業を展開しました。7月と10月のシンポジウム、加盟館を巡るバスツアーやスタンプラリー、各館を紹介するパネルの制作・展示などです。

バスツアーは北部・中南部・南部の3コースで実施されました。いずれの回とも募集定員を上回り、関心の高さが伺えました。特に遠方の博物館を訪れる北部コースは定員の3倍を超える応募がありました。また、当館でも8館を一覧で紹介するパネルをロビーに設置しました。パネルの前で立ち止まった入館者が、自分が知らなかった博物館の情報を確認したり、同行者と会話したり、写真を撮ったりする様子が見られました。スタンプラリーを楽しむ方々の姿もあり、各館へ足を運ぶきっかけになったと考えられます。

8館での取り組みは、博物館の認知度向上や、加盟館同士の課題共有にもつながりました。今後も連携を継続し、活動を続けていく予定です。

❖【告知】台湾特別展 開催

当館は、今年の夏から秋にかけて、台湾の高雄市立歴史博物館と二二八国家紀念館で特別展を開催します。台湾でひめゆり学徒隊をテーマにした展示会は今回が初めてです。ひめゆり学徒隊や沖縄戦について海外に伝える取り組みの一環として、ハワイに続いて台湾で実施します。

会場では、日本語と中国語(繁体字)を併記した展示パネルのほか、中国語字幕付きのひめゆり学徒隊の証言映像も上映します。台湾で証言映像を視聴できる貴重な機会です。展示では、ひめゆり学徒隊の概要をはじめ、沖縄と台湾の関わりや、高雄市立歴史博物館制作の高雄高等女学校の紹介などを行います。

◆学校から戦場へ—ひめゆり学徒隊の沖縄戦 台湾特別展

従学校到戦場—姫百合學生隊の沖縄戦 台湾特展

●高雄 会場：高雄市立歴史博物館 203 多目的室

会期：2026年7月24日(金)～9月13日(日)

●台北 会場：二二八国家紀念館 3階芸文空間

会期：2026年10月3日(土)～11月29日(日)

主催：ひめゆり平和祈念資料館、高雄市立歴史博物館、二二八国家紀念館

●高雄市立歴史博物館 高雄市中正四路 272 号



高雄市立歴史博物館 提供

高雄市の歴史と文化を紹介する総合博物館。建物は日本統治時代の旧高雄市役所を活用している。二二八事件の重要な現場のひとつとして記憶継承の役割も担う。

●二二八国家紀念館 台北市南海路 54 号



二二八国家紀念館 提供

二二八事件の普及啓発と歴史の記録保存、人権教育などに取り組む国の施設。二二八事件の犠牲者や遺族に対する賠償・名誉回復、真相究明、記念事業を行う二二八事件紀念基金会在運営。

コラム 相思樹

海外の博物館と一緒に展示制作に取り組むのは、当館にとって初めての経験です。その過程で、互いの認識の違いに戸惑うこともありましたが、その違いを踏まえて、何をどのように表現するかを考える作業は、歴史への理解を深め、自分たちの課題に気づかされる、刺激的な経験となっています。

共催館の高雄市立歴史博物館からは、写真提供に加え、展示を深める多くの提案をいただきました。そのひとつとして、高雄高等女学校の写真を展示することになりました。防空訓練や食糧増産作業などは、ひめゆりの写真と見間違えるほどよく似ており、当時の台湾と沖縄の女学生たちが、戦時体制のもとで同様の経験をしていたことがうかがえます。

台湾の2都市で開催する特別展の準備が、大詰めを迎えています。展示内容は「ひめゆり学徒隊の沖縄戦」が中心ですが、台湾と沖縄戦の関わりや、両地域で重なり合う経験についても取り上げます。準備の中で、ひめゆりの学校にも、台湾で生まれたり、親が仕事で台湾にいた生徒がいたことに気づき、沖縄の人々にとって台湾がいかに身近な存在だったかを実感しました。

「台湾特別展」準備中

古賀徳子

■ 2025(令和8)年度の主な事業・イベント・出版

当財団は、2026年度に以下の事業およびイベントをおこないます。

▶ 台湾巡回展「学校から戦場へ—ひめゆり学徒隊の沖縄戦 台湾特別展」

高雄会場 2026年7月24日～9月13日 高雄市立歴史博物館

台北会場 2026年10月3日～11月29日 二二八国家紀念館

▶ 「第9回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」(夏頃募集開始)

● 編集・発行 『感想文集 ひめゆり第37号』、『年報第37号』、「資料館だより」第77号・第78号

■ 資料館の動き (2025年11月～2026年5月)

2025年

11月 4日 「沖縄県地域史協議会2025年度第2回研修会」(於：南風原町)に説明員の尾鍋拓美が参加

12月16日 「沖縄県平和祈念資料館展示更新監修委員会」(於：糸満市)に学芸課長の古賀徳子が出席

12月20日 沖縄・平和と人権博物館ネットワーク「沖縄県内の平和関連施設をめぐる第3弾バスツアー」(南風原文化センター、ひめゆり平和祈念資料館、対馬丸記念館。沖縄県主催)受入。館長普天間朝佳と学芸課長古賀徳子が対応

12月20日 「戦後80年特別展 ひめゆりと八重山」開幕(於：当館第6展示室)

12月24日 「第2回糸満市観光振興基本計画 策定委員会」(於：糸満市)に館長の普天間朝佳が出席

12月24日～1月6日 冬休み企画としてガイダンス実施(計21回)

2026年

1月 8日・9日 「日本平和博物館会議」(於：京都府)に館長の普天間朝佳が出席。説明員の宮城奈々がオンライン参加

1月15日 「沖縄県修学旅行推進協議会平和学習分科会」(於：読谷村)に説明員の仲田晃子が出席

1月22日 「令和7年度 沖縄県博物館協会 秋の研修会」に説明員の尾鍋拓美がオンライン参加

1月22日 沖縄県平和祈念資料館特別展「台湾二・二八事件特別展『歴史の残響 記憶の叫び』開幕式」(於：糸満市)に、館長普天間朝佳と学芸員前泊克美が出席

1月26日 「沖縄県平和祈念資料館展示更新戦前・戦中部会」(於：糸満市)に学芸課長の古賀徳子が出席

2月 7日 「中城村教育の日 教育講演会」(於：中城村)の講師を館長の普天間朝佳が務める

2月7日・8日 「平和のための博物館市民ネットワーク2025年度全国交流会」(於：京都府)に学芸員の前泊克美が参加

2月13日 沖縄平和協力センターによる平和研究所に関するヒアリング実施。館長普天間朝佳が対応

2月27日 「第8回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」選考委員会開催。ひめゆり映像賞を那覇市立大道小学校6年生が、特別賞を沖縄県立豊見城南高等学校美術(写真)部が受賞。県内学校のダブル受賞は初

2月28日 「戦後80年特別展 ひめゆりと八重山」閉幕(於：第6展示室)

3月17日 「第8回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」の受賞作品をホームページにて発表

3月19日 「令和7年度 第2回沖縄県平和祈念資料館 運営協議会」に学芸員の前泊克美が出席

3月20日 沖縄アーツカウンシルによる令和7年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業採択事業報告会「YUUREEGWa 2025>2026」(於：那覇市)。学芸員の前泊克美と説明員の宮城奈々が報告を行う

3月21日～4月6日 春休み企画としてガイダンスを実施(計15回)

3月30日 「第8回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」授賞式開催。大道小学校児童代表、豊見城南高校美術(写真)部代表と、関係者、選考委員宮平貴子氏が出席

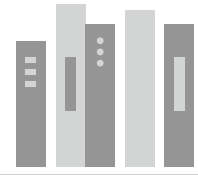
4月27日 「沖縄県平和祈念資料館展示更新戦前・戦中部会」(於：糸満市)に学芸課長の古賀が出席

4月29日～5月5日 ゴールデンウィーク企画としてガイダンス実施(計7回)

4月29日～5月6日 ゴールデンウィーク企画として、「第8回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」授賞2作品を第6展示室にて上映。関連して、ひめゆり映像賞を受賞した大道小学校の版画作品を展示

『ひめゆり学徒だった山内祐子さんが
沖縄の高校生に伝えたこと』

渡辺考 著 講談社 2025年



「ひめゆり平和祈念資料館」は、戦場に出たひめゆり学徒たちが、その体験を語る施設として知られた。彼女らは、いわゆる「証言員」として、それぞれ体験したことを来館者に語り、戦場の実態を伝えてきたが、彼女らとは別に、個人的に、ひめゆり学徒の戦場体験を語って来た人もいた。山内祐子さんがその一人である。

本書は、山内さんが、沖縄戦を語り継いでいきたいと考えている女子高校生たちに、沖縄戦下におけるひめゆり学徒たちの日々を語り、女子高生たちに同行した著者が、それを書き取っていくといった一種の随行記で、二部構成で成っている。その一部では、山内さんの戦場体験談と女子高生たちの反応を、二部では、女子高生たちの戦場追体験を追っていく。

山内さんは、女子高生たちに話すため、用意したものがあつた。15枚の絵である。15枚の絵は、しかし、女子高生たちのために描かれたものではなく、退職間近になった山内さんに、戦争について話して欲しいという依頼が相次ぎ、その要望にこたえるため、考え出されたものであつた。山内さんも、他の生き残ったひめゆりたち同様、長い間、戦争について語る事はなかつたが、沈黙してはいけないうことを知り、涙をこらえながら、小学生にも伝わるようにと15枚の絵からなる紙芝居を作っていたのである。

山内さんは、女子高生たちを前にして、15枚の絵にそつて、学園風景にはじまり、戦時下の学園生活、動員されて学校を出発した3月23日の夜半から南風原病院壕での看護活動、南部への撤退そして喜屋武で捕虜になった6月23日までをたどっていく。

山内さんは、絵を取り出し、その裏に書かれた文章を読んでいく。女子高生たちがそれぞれに反応していく。著者は、その一枚一枚の絵をめぐって、その前後の状況を丁寧に説明していく。15枚の絵で、ひめゆりたちの戦場がくつきりと浮かび上がってくると同時に、山内さんの話に、引き込まれていく女子高生たちの様子が写し取られていく。

彼女たちの親世代が、沖縄戦について伝え聞いていたかどうかすら、すでにあやしい中で、彼女たちは、体験者から戦争について聞き取り、それを語り継いでいこうとしているのである。本書は、そのような女子高生たちの真摯な態度に、心打たれた記録ともなっていた。

戦争を伝えていく方法はいろいろとある。二部で構成された本書に見られるように、戦場を追体験するのもその一つであり、体験者の話を聞くのもその一つである。それらは、いずれも大切なことであり、引き継がれてほしいものであるが、その時、忘れてはいけないことがあるのではないと思われた。それは、15枚の絵に関する説明を補足している記述にもかかわることである。

山内さんは、絵の一つで、水を欲しがらる重症患者と向き合っている場面をえがいていた。そこで、重症患者に水を飲むことは禁じられていたにもかかわらず、患者の必死の要求を拒絶できず与えてしまう。そのことに関し、著者は「山内さんは、一人の兵士のことが忘れられません」として、その様子を書いている。こころに深い傷を残した場面であるが、同様な記述が『ひめゆりの塔をめぐる人々の手記』にもあつて、そこで山内さんが、水をあげたのは、「一人の兵士」という、一般の誰かになのではなく、彼女の「従弟」に、となっていた。

「一人の兵士」か「従弟」か。その違いはどうして生じたのか、といったようなこと。さらには、捕虜になる場面に出て来る「お母さんの顔、一目でいいから、見たい」という言葉に関する大見祥子の証言（「死なないといけないうと思っていたのに」『生き残ったひめゆり学徒たち一収容所から帰郷へー』）および「福地キヨ子の手記」（『ひめゆりの塔をめぐる人々の手記』）に出て来る記述との違いを、どう読むか、といったことがある。

それはどちらが正しいかといったような問題ではない。多様な証言があるということを知り、学んでいくことを若い世代に、知ってもらふ必要があるということである。戦争といういずれも苛烈な場の記憶である。そのような場の記憶について、幾つもの異なる証言がある場合、それをどう受け取っていくか、なぜ違いがでてくるのかといった話し合いが、証言者がいなくなるにつれ、いよいよ大切になっていくと思われるからである。

今号をもちまして、「本棚」は長い連載の幕を下ろします。仲程昌徳氏の丁寧な読みと多角的な視点による書評は、読者に多くの気づきと考えるきっかけを与えてくれました。長年に渡りご執筆いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

連載「本棚」一覧

創刊号から連載を続けてきた、仲程昌徳氏による「本棚」が、今号で最終回となります。全70回の連載で取り上げた書籍の一覧を掲載します。「本棚」は、沖縄戦に関する書籍を紹介・論評する内容でした。証言記録、ルポルタージュ、小説、地域史、映画の脚本、展示図録、絵本、歌集、卒業論文と、ジャンルや出版の多寡を問わず、沖縄戦に関する表現を取り上げています。

- 凡例 ・『資料館だより』で連載した仲程昌徳氏による「本棚」、全70回の一覧です。
- ・連載時は、取り上げる書籍名がタイトルになっていました。掲載時のタイトルの体裁にかかわらず、編著者、書名、出版者、出版年の順に記しました。また、連載時のタイトルに未記載の情報を補いました。
- ・書名のみで内容が分かりづらいものについては、[]に入れて情報を補いました。

連載回	取り上げた書籍	掲載号	資料館だより刊行日
1	『公式ガイドブック ひめゆり平和祈念資料館』1989年 『感想文集ひめゆり 第一号』1990年	1	1990/11/23
2	ひめゆり平和祈念資料館建設期成会資料委員編『墓碑銘一亡き師亡き友に捧ぐー』 ひめゆり同窓会・ひめゆり相思樹会、1989年	2	1991/6/9
3	『ひめゆり 女師・一高女沿革誌』(財)沖縄県女師・一高女同窓会、1987年、 『ひめゆり 女師・一高女写真集』(財)沖縄県女師・一高女ひめゆり同窓会、1991年	3	1991/12/23
4	宮良ルリ『私のひめゆり戦記』ニライ社、1986年	4	1992/6/6
5	伊波園子『ひめゆりの沖縄戦一少女は嵐のなかを生きた』岩波書店、1992年	5	1992/12/23
6	野里洋『汚名一第二十六代沖縄県知事泉守紀』講談社、1993年	8	1994/1/23
7	森口豁『最後の学徒兵 BC級死刑囚・田口泰正の悲劇』講談社、1993年	9	1994/5/23
8	親里千津子『ちーちゃんの沖縄戦』ニライ社、1994年	10	1994/9/23
9	『戦後五十年記念作品 ひめゆりの塔』1994年 [1995年公開の東宝映画の脚本。 原作 仲宗根政善・水木洋子、脚本 神山征二郎・加藤伸代、監督 神山征二郎]	11	1995/1/23
10	仲宗根政善『蚊帳のホテル』沖縄タイムス社、1988年	12	1995/5/30
11	スタンレー・ベネット 著、加藤恭子・今井萬亀子 編訳『戦場から送り続けた手紙ーある米海軍士官の太平洋戦争』ジャパン・タイムズ、1995年	14	1996/1/30
12	宮城喜久子『ひめゆりの少女ー16歳の戦場』高文研、1995年	15	1996/5/30
13	なごらん 21期生委員編『戦時下の学園記ー戦火をくぐって』なごらん同窓会、1996年	16	1996/9/30
14	吉田健正『沖縄戦米兵は何を見たか 50年後の証言』彩流社、1996年	17	1997/1/30
15	白梅同窓会編『平和への道しるべー白梅学徒看護隊の記録』同会、1995年	18	1997/5/30
16	大田静男『八重山の戦争』南山舎、1996年	19	1997/9/30
17	嶺井百合子『衆ん苦しみん 嶺井百合子回想記』若夏社、1997年	20	1998/1/30
18	沖縄県文化振興会公文書館管理部史料編集室編 『沖縄県史 資料編3 米国新聞に見る沖縄戦報道』沖縄県教育委員会、1997年	21	1998/5/30
19	ひめゆり同窓会相思樹会編『戦争と平和のはざまー相思樹会の軌跡ー』同会、1995年	22	1998/11/30
20	沖縄師範龍潭同窓会『留魂の碑ー鉄血勤皇師範隊はいかに戦塵をくぐったかー』 龍潭同窓会、1998年	23	1999/5/30
21	仲田精昌『島の風景 少年の心に記録されたもうひとつの<沖縄戦>』晩聲社、1999年	24	1999/11/30
22	「ひめゆり」をめぐる三つの論考 [琉球大学学生の卒業論文]	25	2000/5/30
23	梯梧同窓会編『戦場に生きるー梯梧学徒の体験記』同会、2000年	26	2000/11/30
24	船越義彰『小説遊女たちの戦争 志堅原トミの話から』ニライ社、2001年	27	2001/5/30
25	宮城晴美『母の遺したもの 沖縄・座間味島「集団自決」の新しい証言』高文研、2000年	28	2001/11/30
26	野坂昭如 作・黒田征太郎 絵『ウミガメと少年 野坂昭如戦争童話集 沖縄篇』 講談社、2001年	29	2002/5/30
27	宮城巳知子 著・成井俊美 画『ずいせん学徒の沖縄戦 最前線へ送られた女学生の手記』 ニライ社、2002年	30	2002/11/30
28	小林照幸『21世紀のひめゆり』毎日新聞社、2002年	31	2003/5/31
29	上江田千代『ひめゆり 予科一年生』文芸社、2003年	32	2003/11/30
30	ひめゆり平和祈念資料館編『ひめゆり学徒の戦後』同館、2004年	33	2004/5/30
31	『ひめゆり平和祈念資料館 ガイドブック (展示・証言) 日本語版』2004年	34	2004/11/30
32	青春を語る会 編著『沖縄戦の全女子学徒隊一次世代に遺すものそれは平和ー』 フォレスト、2006年	38	2006/11/30

連載回	取り上げた書籍	掲載号	資料館だより刊行日
33	NHK 沖縄放送局編『沖縄戦の絵 地上戦 命の記録』日本放送出版協会、2006年	39	2007/5/30
34	謝花直美『証言沖縄「集団自決」一慶良間諸島で何が起きたか』岩波書店、2008年	41	2008/5/31
35	具志川市史編さん委員会編『具志川市史 第五巻 戦争編 戦時体験Ⅰ・Ⅱ』具志川市教育委員会、2005年	42	2008/12/31
36	國森康弘『証言 沖縄戦の日本兵 六〇年の沈黙を超えて』岩波書店、2008年	43	2009/5/31
37	目取真俊『眼の奥の森』影書房、2009年	44	2009/11/30
38	『ひめゆり平和祈念資料館資料集3 ひめゆり学徒隊』2004年	45	2010/5/31
39	『ひめゆり平和祈念資料館20周年記念誌 未来へつなぐひめゆりの心』2010年	46	2010/11/30
40	吉浜忍・大城和喜・池田榮史・上地克哉・古賀徳子 『沖縄陸軍病院南風原壕 戦争遺跡文化財指定全国第1号』高文研、2010年	47	2011/6/1
41	北村毅『死者たちの戦後誌 沖縄戦跡をめぐる人びとの記憶』御茶の水書房、2009年	48	2011/11/30
42	ひめゆり平和祈念資料館 文・三田圭介 絵『絵本 ひめゆり』同館、2011年	49	2012/5/31
43	ひめゆり平和祈念資料館編『生き残ったひめゆり学徒たち—収容所から帰郷へ—』同館、2012年	50	2012/11/30
44	上江洲慶子『歌集 相思樹の譜』むぎ社、2010年	51	2013/5/31
45	琉球新報社会部編『未来に伝える沖縄戦』①②、同社、2013年	52	2013/11/30
46	琉球政府立那覇高等学校六期生(昭和28年卒)戦争体験記発行委員会編 『戦時下の学童たち 那覇高六期生「戦争」体験記』同会、2011年	53	2014/5/31
47	大田昌秀『大田昌秀が説く沖縄戦の深層』高文研、2014年	54	2014/11/30
48	蟻塚亮二『沖縄戦と心の傷 ト라우マ診療の現場から』大月書店、2014年	55	2015/5/31
49	具志堅隆松『ぼくが遺骨を掘る人「ガマフヤー」になったわけ サトウキビの島は戦場だった』合同出版、2012年	56	2015/11/30
50	大城将保作、磯崎圭佳 画『石になった少女 沖縄・戦場の子どもたちの物語』高文研、2015年	57	2016/5/31
51	浅井春夫『沖縄戦と孤児院 戦場の子どもたち』吉川弘文館、2016年	58	2016/11/30
52	本村つる『ひめゆりにさゝえられて』フォレスト(発売)、2016年	59	2017/5/31
53	大田昌秀『久米島の「沖縄戦」空襲・久米島事件・米軍政』 沖縄国際平和研究所、2016年	60	2017/11/30
54	大城貞俊『一九四五年 チムグリサ沖縄』秋田魁新報社、2017年	61	2018/5/31
55	沖縄県教育庁文化財課史料編集班編『沖縄県史 各論編 第六巻 沖縄戦』 沖縄県教育委員会、2017年	62	2018/11/30
56	吉浜忍『沖縄の戦争遺跡(記憶)を未来につなげる』吉川弘文館、2017年	63	2019/5/31
57	川満彰『陸軍中野学校と沖縄戦 知られざる少年兵「護郷隊」』吉川弘文館、2018年	64	2019/11/30
58	池田榮史『沖縄戦の発掘 沖縄陸軍病院南風原壕』新泉社、2019年	65	2020/5/31
59	仲松昌次『「艦砲め喰えー残さー」物語 「でいご娘」と父・比嘉恒敏が歩んだ沖縄』 ポーターインク、2015年	66	2020/11/30
60	『ひめゆり平和祈念資料館資料集4 沖縄戦の全学徒隊』同館、2008年、2011年、 2020年[各版]	67	2021/6/23
61	藤原健『終わりなき(いくさ)～沖縄戦を心に刻む』琉球新報社、2020年	68	2021/11/30
62	石原昌家『国家に捏造される沖縄戦体験—準軍属扱いされた0歳児・靖国神社へ合祀』 インパクト出版会、2022年	69	2022/5/31
63	養秀同窓会編『一中学徒からのメッセージ—遺書に託された恒久平和への道—』 同会、2022年	70	2022/11/30
64	渡辺考『沖縄 戦火の放送局 一軍隊に飲み込まれたラジオ』大月書店、2022年	71	2023/5/31
65	『ひめゆり平和祈念資料館ガイドブック 展示と証言』2023年	72	2023/11/30
66	池澤夏樹 文・黒田征太郎 絵『ヤギと少年、洞窟の中へ』 スイッチ・パブリッシング、2023年	73	2024/5/31
67	古賀徳子・吉川由紀・川満彰編『続・沖縄戦を知る事典—戦場になった町や村—』 吉川弘文館、2024年	74	2024/11/30
68	柴田昌平 文・阿部結 絵『ももちゃんのピアノ 沖縄戦・ひめゆり学徒の物語』 ポプラ社、2022年	75	2025/5/31
69	川平カツ『ひめゆりの心 八重山の思い』南山舎、2024年	76	2025/11/30
70	渡辺考『ひめゆり学徒だった山内祐子さんが沖縄の高校生に伝えたこと』講談社、2025年	77	2026/5/31

統計に見る2025年度

2025年度の入館者数は、2024年度比で104%の増加となりました。ただし、コロナの影響が少なかった2019年度(491,345人)と比べると、約86%にとどまっています。

① 入館者状況

① 有料 421,728人

2024年度 403,747人より **+17,981人 104%**

うち外国人 6,382人、前年度比 -1,566人

*2021年度より、慰霊の日は有料入館

開館以来 37 年間で **32 番目**の入館者数
平均入館者： **35,144 人(1 か月) 1,155 人(1 日)**
開館以来 36 年間の累計： **24,888,249 人**
(1989 年度は開館期間 9 か月間)

② 無料 24,950人

団体(県内学校団体・特別支援学校・一般団体含む) …………… 5,766 人

学校団体引率者 …………… 12,376 人

修学旅行下見 …………… 1,280 人

個人免除者(身障者手帳等提示の方など) …………… 5,528 人

※県内学校団体は入館料免除のため総入館者数には含まれないが、「2. 学校団体入館状況」(団体数・人数)には含まれる。

② 学校団体入館状況

学校団体数 1,439校/172,348人

2024年度1,438校、180,761人に比較すると、**+1校、-8,413人**。全体の割合は、小学校77校・5%、中学校479校・33%、高校883校・62%。前年度比で約106% (団体数) 増加。コロナ前の2019年度1,838校 (246,049人) と比較すると約70% (団体数) にとどまっている。

団体プログラム(平和講話・ビデオ視聴)のご案内

当館では、平和学習プログラム(職員による平和講話(約40分)やビデオ視聴(約30分))を提供しています。プログラムは多目的ホールにて、団体貸切で行います。事前予約が必要です。FAX・Web・電話でお申し込みください。

▶ 対象：当館を見学する団体 ▶ 実施時間帯：9:05～16:00 (最終開始時間)

- 予約時間に遅れた場合、予約状況によってはキャンセルとなる場合もあります。
- 収容人員は約200人(席)です。
- 多目的ホール使用料1回：3,300円(同一団体2回目以降は2,200円)
※多目的ホールは、上記平和学習プログラム以外での貸出は行っていません。

(下記の期間はご予約はできません)

- 年末年始(12月30・31日、1月1日～3日)、旧盆(旧暦7月13日～15日)、慰霊の日前後(6月21・22日、24日)はビデオ視聴のみ予約可能です。
- 慰霊の日(6月23日)は講話・ビデオともに予約できません。

重要 団体予約の受付方法が変わりました

予約の利便性向上のため、受付方法を変更いたしました。FAX・Web・電話でのご予約で、受信した時間の早い順に受付となります。詳細はホームページをご覧ください。



Information

- ・ 開館時間 9:00am - 5:25pm (入館締切は5:00pm)
- ・ 年中無休 ※台風などで路線バスが運休の場合は休館
- ・ 入館料 [個人]大人450円 高校生250円 小中学生150円
[団体]大人400円 高校生200円 小中学生110円
※団体料金は20名様以上、一括払い。 ※団体入館は予約制です。必ず事前にご予約ください。

ひめゆり平和祈念資料館 資料館だより
第77号 2026(令和8)年5月31日発行

【編集・発行】

公益財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立ひめゆり平和祈念資料館
〒901-0344沖縄県糸満市宇伊原671-1 TEL098-997-2100 FAX098-997-2102

ひめゆり平和祈念資料館

検索

<https://www.himeyuri.or.jp/>

